

キャラクター名 プレイヤー名

シンドローム	ブラックドッグ		ワークス	カヴァー	軍人	
	モルフェウス					
オプション			年齢	2 1	性別	男性
覚醒	素体	衝動	妄想	初期侵食率	30 %	
出自	貧民	経験	選ばれし者	邂逅	同志	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	27
肉体	3	0	0			3	行動値	15
感覚	3	0	3		1	7	(非装備時)	15
精神	1	0	0			1	戦闘移動	20
社会	1	0	0			1	全力移動	40

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃	4		RC	2		交渉		
回避	1		知覚	1		意志	1		調達		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:情報:軍事	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
リニアキャノン	射撃	7r+2	-	8		相手ドッジ時対象のD-2
壱式迅雷 [100↓]	射撃	10r+2	-	12		浸蝕値6:C値8:1+3+6
壱式迅雷 [100↑]	射撃	10r+2	-	24		浸蝕値10:C値7:1+3+5+6
貳式豪雷 [100↓]	射撃	9r+2		12		浸蝕値9:C値8:1+3+4+6 装甲無視

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品		合計装甲:	0	合計回避:	0
コネ: 軍事		ロイス			
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費	
友人: クラウス・バーナー	P 友情	N 不安			
ライバル: ()	P	N			
同志: キョーム・ド・ノートルダム	P 尊敬	N 劣等感			
フェリックス・エアハルト	P 感服	N 憤懣			
	P	N			
	P	N			
	P	N			
最大財産P:	2	残り財産P:	1		

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
コンセントレイト: ブラックドッグ	2	2	メジャー	-	-	-	-	
効果: cri-2								
ハードワイヤード	1	-	常時	至近	自身	自動	-	
効果: ブラックドッグ専用アイテム取得								
アームズリンク	3	2	メジャー	武器	-	対決	-	
効果: 判定: ダイスを+Lv								
ペネトレイト	1	3	メジャー	武器	-	対決	-	
効果: 装甲無視: 自身の判定ダイス-1								
MAXボルテージ	1	4	メジャー	-	-	対決	80↑	
効果: 攻撃力+10 自身の判定ダイス-1								
雷光撃	2	2	メジャー	-	-	対決	-	
効果: 攻撃力+Lv×2								
タッピング&オンエア	1	1	メジャー	視界		自動		
効果: 無線の傍受とか送信とかできる								
人間発電機	1		メジャー	至近		自動		
効果: 発電する								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

侵食: 4 0

めちゃくちゃ明るい。自信家で野心家。金にぎらぎらしてる。コンプレックスの塊でもある。

貧しい家に生まれたがすぐに捨てられ、乞食として貧困にあえぎながら成長する。成長してから通りすがりのドイツ軍人に拾われ、そのオッサンの息子のかわりに軍人にされる。

これで俺も人並みの暮らしが！と思ってたら改造されて超人兵士である。悲しみ。

悲しかったけど任務を頑張ったら死にかけて英国紳士に助けられ、「君の力はそんなことをするためのものではないはずだ…」とか言われて「そうかつまり俺のこの力は祖国に帰り裕福な暮らしをするための！！」と勘違いして「もう泥水を嚙らなくていいんだ！！」と希望に満ち溢れている。

ドイツ軍に入ってからできた友人がいたが、とある任務で死んだ。

友人ができたことを畜生道から外れたことの証のように考えていたため、当時は結構落ち込んだ。

▼以下ハンドアウト
PC2
ロイス: フェリックス・エアハルト
ポジティブ: 感服/ネガティブ: 憤懣
カヴァー/ワークス: 指定無し/超人兵士
「君には超人兵士の適正がある！！」ナチス仕官が発したその言葉を境に、君の人生は一変した。不気味な施設にプチ込まれ、来る日も来る日もナチスの手駒として鍛えられる日々。あるとき、特別任務を帯びたフェリックス・エアハルトというSS少佐と共に、急行列車へと乗り込む事となった。これは脱走のチャンスだ